

逸材を輩出した

カナダ学校

兵庫三ノ宮の国鉄駅からタクシーで十五分ほど行った山の中に、尾根をけすって作った運動場と一群の建物が広がる。

神戸市街を一望できるこの閑散な地にたっているのが、「カナダ学校」として知られるカナディアン・アカデミーである。

東京の西町インタナショナル・スクールなどと同じく、主には在日外国人の子供たちを教育する学校である。現在、アメリカ、カナダ、オーストラリア、インド、トルコ、日本など、およそ三十か国の生徒五百数十人が、一年から十二年まであるこの学校で学んでいる。

きわめて小規模な学校であるが、この学校が輩出した優秀な人物は数知れないほど多い。前駐日アメリカ大使のライシヤワー教授もかつてこの生徒であったし、カナダ人の中では戦後、初代駐日カナダ代表をつとめた故ハーバート・ノーマン、ウェスタン・オンタリオ大学の物理学者長ドナルド・マイズナー、現北京駐在カナダ大使のアーサー・メンジス、ドミニオン天体研究所高層圏研究班主任研究員のビーター・ミルマン、ブリテイッシュ・コロンビア大学教授ロス・マツケイなどの各氏がカナダ学校を卒業している。

る。

カナダ学校の創立は一九一三年。カナダからA・D・マイズナー夫人を校長に招いて、先生一人、生徒十六人で発足した学校は、当初「カナダ・メソジスト・アカデミー」と呼ばれ、田んぼのど真中、関西学院旧校舎（現在の王子動物園）の近くにあって、その名称から察しられるように、学校はすでに日本で四十年も布教活動を続けていたカナダ・メソジスト伝導団が、子弟の教育のために設立したものである。最初の生徒のうち、九人がカナダ・メソジスト教団関係者の子供であった。学年の終りになると、他教団の子弟が十人、神戸在住の外国商人や領事館員の子弟が十人に増え、合計二十九人となった。そのうち、台湾、朝鮮、香港、満州出身の子供も入学して、国際色豊かになるとともに、学校の内容も充実していった。

当時の授業はオンタリオ州のカリキュラムに準じて行われた。日本語や日本の童話を教える試みも時おりなされたが、歴史や芸術などはオンタリオの学校で教える内容とほとんど変わらなかった。卒業生は、トロント大学、コペンハーゲン大学、ベルン大学、ペンシルバニア大学、その他数多くの大学が受け入れた。この種の学校の中では、生徒も教師も非常に優秀なのが揃っていて、オンタリオ州からきた教育指導主事はカナダ学校の校長宛て、次のように書いているほどである。

毎年毎年の試験結果を見ますと、生徒たちのすばらしい出来ばえに感心させられる一方です。これは、教師の教

授力だけでなく、学校全体にやる気があるためでしょう。

野球、テニス、演劇、討論、音楽など、課外活動も盛んで、スポーツの分野では近くの学校と交流試合をすることもあった。

一九一七年、学校は「メソジスト・アカデミー」から、ただの「カナディアン・アカデミー」にか変わった。サザン・プレスビテリアンなどカナダ・メソジスト教団以外の教団からの援助がふえ、メソジスト教会の占有ではなくなったからである。

やがて関東大震災で東京から神戸に移り住む人が増えたことなどが原因で、学校は手狭になった。そこで近くに土地を購入して、そこに男子寮を建てた。一九三〇年後半の生徒数は、およそ二百人であった。

しかしアジアの戦雲は急を告げ、帰国する生徒や教師がふえた。そしてとうとう一九四二年、学校は閉鎖され、財産は日本政府の管理下におかれた。しかも、古い建物は空襲で焼け落ち、残ったのは男子寮だけとなった。

学校が再開されたのは一九五三年。海外から日本に帰ってきた子供たちは、戦後、駐留軍の学校に通っていたが、カナダ合同教会とアメリカの七教団が中心になって学校が再開されると、百一人の生徒が集まった。男子寮と、占領軍が兵士用に建てた運動用具納庫が、教室に早がりした。教師も足りなかったが、宣教師が時間を割いて教えてくれた。

一九五六年、カナダ学校は社団法人カナダ・キリスト教布教団から学校法人カナディアン・アカデミーに移管された。理事会はアメリカ側が多数を占めたが、校長は長い間親しまれてきたカナダ学校を、そのまま残すことになった。

ほとんどゼロから再出発したカナダ学校であったが、旧校地の処分、松下電器の援助、各教団の助成などに支えられて学校施設は次々と整備されていった。

今では、小学校校舎、中等学校校舎、体育館兼講堂、工芸美術館（ハーバート・ノーマン記念図書館、音楽施設、美術室などを擁している）、寮——と、揃っている。授業内容も日本史や日本語が加えられる、また課外活動や工場、博物館、名所旧跡などへの見学旅行も盛んだ。生徒の成績もよく、一九七六年における卒業生の平均点は五百三十三対四百七十と、米国の学校での平均点をはるかに上回っていた。

最近、カナダ学校も対外的に知られるようになった。歌舞伎公演のためである。一昨年は、大阪だけでなく東京にも、遠征して好評を得た。

カナダ学校——日本とカナダを結ぶ、もうひとつのきずなである。

